

新たな収益モデルを構築する ソフトウェアライセンス FlexNet Embedded for eT-Kernel



立田 純一
イーソル株式会社 技術戦略室

イーソル株式会社はこのほど米フレクセラ・ソフトウェア社と業務提携し、同社の組込み機器向けライセンス管理ソフトウェア「FlexNet Embedded」を、イーソルが提供するeT-Kernelに移植した。これを新たなミドルウェア「FlexNet Embedded for eT-Kernel」として提供し、同製品を中心とした組込み機器向けライセンス管理システムのインテグレーションサービスを展開する。

機器単体の売り切り ビジネスモデルの行き詰まり

組込みシステムの多機能化が進む中、組込み機器を製造・販売するメーカーの収益のモデルが大きく変化している。これまでは、組込み機器単体の売上げの合計からコストを払い、利益を上げるビジネスモデルだった。機器に搭載されるハードウェアスペックは、その機能を満たす必要最小限のものが選択されており、機器を購入したエンドユーザは、その機能をすべて使うことができた。

ところが、昨今のスマートフォンに代表される機器は、アプリケーションの追加購入や通信費など、機器の販売時点ではなく、使用時のサービスから得る収益がビジネスの中心に移っている。つまり、機器自体は安価に、場合によっては無償で

提供してユーザを増やし、その機器を通してユーザが得るサービスに課金して収益を上げるモデルである。ユーザデマンドにマッチするこの新たなビジネスモデルは、ユーザの支持を得て適用範囲を拡大し、多くの組込み機器メーカーに対してビジネスモデルのシフトを迫っている。

このモデルは、何も新しい概念ではなく、プリンタなどのOA機器では古くから導入されている。プリンタビジネスは、機器自体の販売よりも、ユーザが印刷するたびに使うインクから収益を得ており、サービスから収益を上げる典型的なモデルである。しかし、これはインクカートリッジという物理的なサプライがあるからこそ成り立つことであり、それを組込みシステムのソフトウェアで実現することは難しかった。

これを実現するのが、FlexNet Embeddedによる組込み機器向けソフトウェアライセンス管理システムである。ソフトウェアライセンス管理は、

PCやメインフレームなどをプラットフォームとした業務用のソフトウェアでは、すでに使用されている。そのデファクトスタンダードがフレクセラ社のFlexNetである。ネットワーク化を中心とした組込み機器の高機能化が、ソフトウェアライセンスの組込み機器への導入を容易にしたのである。

組込み機器のソフトウェア ライセンス管理システム

FlexNet Embedded for eT-Kernelは、ネットワークへの接続性能を持たない機器にも適用でき、高いスケーラビリティを持つ。しかし、これが最も真価を発揮するのは、図1のようなシステムを構築した場合である。このシステムは、組込み機器を操作してユーザが自身のライセンス権を自在に変更し、その情報がERPなどのバックオフィスシステムに通知、管理され、実際に新しいラ

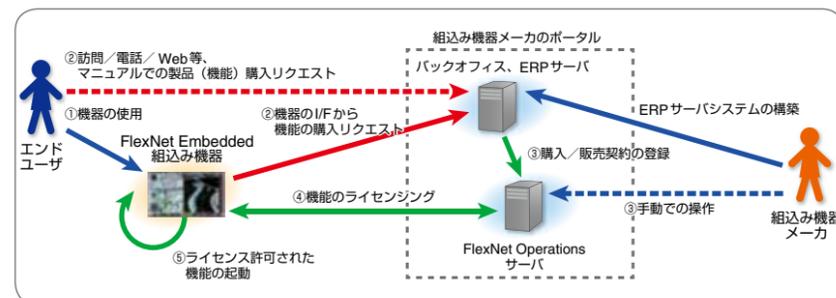


図1 FlexNet Embeddedとメーカーのポータルが連動した、組込み機器のライセンス管理システム

イセンス権に従った機器の動作までを全自動化する。これを容易に実現するのが、FlexNet Operationsである。

●FlexNet Operationsとは

FlexNet Operations は、FlexNet Embeddedを組み込んだ機器に対してライセンス管理サービスを提供するサーバである。販売管理などを行うERPサーバとともに組込み機器メーカーのポータルの一部として構築され、運用される。FlexNet Operationsは、ネットワークを介してFlexNet Embeddedが組み込まれた機器と通信する機能を持ち、これによって、ポータルが管理しているユーザのライセンス権に従って組込み機器の使用権を制御する。

ユーザデマンドに細かく対応

もしも機器に機能ごとのライセンスが備わっていなければ、ユーザは一部に妥協して自分に必要のない機能にまで対価を払うか、あるいは購入を諦めて、より自分の要求に合う機器を探すか、どちらかである。いずれにしても、ユーザの要求を完全に満足させるものではない。

しかし、機能ごとのライセンスができれば、ユーザは自分が必要とする機能だけを購入できる。FlexNet Embedded for eT-Kernelで実現できるライセンス管理は、機能単位だけでなく、使用期限などの時間や使用回数など、さまざまな基準で使用権管理ができる。何に対してどのようにライセンスするか細かく指定できれば、ユーザの多様な要求に合ったライセンスを提供できる。

高性能な機能を多く搭載して半永久的に使用する高額な機器は、ユーザが思い切って購入するか、あるいは

は購入しないかというゼロ/サム勝負になるリスクがある。それを機能や性能のグレードあるいは使用期間などで分割して個々を安価にすれば、ユーザの購入を促すだろう。

ライセンス管理システムも

このように、ユーザの細かい要求に対応して個々を安価にする場合、販売管理システムの運用コストに注意が必要だ。単価が少額であるほど、それを管理するコストを低くする必要がある。500円で売るものを登録管理するために、1000円の人件費はかけられない。そのため、ユーザからの購入要求の受け付けから、販売、売上管理、ライセンス付与までを自動化して、組込み機器とその上のサービスを中心としたビジネスを管理するシステム全体の運用コストを低減することがキーとなる。

これに対しては、FlexNet Operationsと、顧客管理や売上管理を行うERP、CRMなどのサーバとの連携機能が有効だ。FlexNet Operationsを使用すれば、オペレータによる受注処理などの人的コストをかけることなく、容易にライセンス管理システムを構築できる。

プロダクトラインを効率化して トータルコストを低減する

これらのライセンスソリューションは、プロダクトラインの効率化という効果ももたらす。つまり、部品コストさえ許せば、ハイエンド向けとローエンド向けを同一の機器として、エンドユーザが購入したライセンスに従って有効化する機能に変化を持たせる。これにより、開発コストや製造ラインを効率化するこ

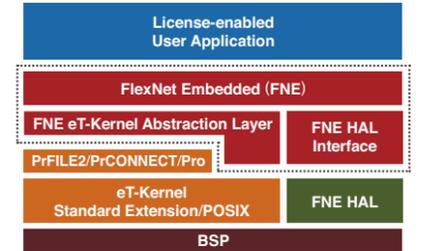


図2 FlexNet Embedded for eT-Kernelのアーキテクチャ

とでトータルコストの低減が可能だ。

また、エンドユーザにとっても、ハイエンド機器へアップグレードしたい場合などに、機器自体の買い替えが不要となるメリットがあり、組込み機器製品の訴求力向上に貢献するはずだ。

FlexNet Embedded for eT-Kernel アーキテクチャ

FlexNet Embeddedは図2のように、コアとなるコンポーネントと、OSプラットフォームに依存するレイヤ、FlexNet Embeddedを組み込むデバイスに特有の機構に合わせるレイヤを持つ。FlexNet Embedded for eT-Kernelは、OSプラットフォームレイヤがeT-Kernelに適応した形で提供する。

さらにFlexNet Operationsも、イーソルがそのサプライセンサーとして販売し、FlexNet Embeddedとそれを組み込む機器のアーキテクチャを含めたトータルのビジネスモデルの設計、コンサルティング、受託開発サービスを行っていく。①

●問い合わせ先

イーソル株式会社
TEL : 03-5302-1360
E-mail : ep-info@esol.co.jp
http://www.esol.co.jp/embedded/